



2018(平成30)年2月号

俱会一処

新年を迎え、あつという間に一カ月が過ぎました。一月の終わりには、記録的な大雪と寒波で大変でした。境内の除雪作業をしている傍ら、子どもは元気なもので、雪だるまを作って遊んでいました。雪が積もって喜ぶ子ども、対照的にゲンナリするのが大人といったところでしょうか。

さて、今号は「俱会一処（くえいしよ）」について味わわせていただきます。俱会一処は、浄土三部経といわれるお経の一つ『仏説阿弥陀経』の中に出てくるお言葉で、「ともにまた一つのところで会う」というお釈迦さまのご説法です。浄土真宗の墓石の中央によく彫られているので、皆さまも見かけられたことがあるでしょう。

『仏説阿弥陀経』には、「先にお浄土に生まれた者たちのことを思い、そして自分もお浄土に生まれたいと思うのであれば、お浄土と阿弥陀如来についてよく聞きなさい。必ずお浄土で会えます。」と説かれています。

この時期になると、私は20年ほど前に亡くなった祖母のことを思い出します。というのも、2月25日が祖母の祥月命日に当たるからです。当時私は実家を離れ、京都の大学に行っていました。亡くなる前日、24日が祖母の91歳の誕生日だったこともあり、久しぶりに電話で祖母と会話をしました。その僅か数時間後に、不慮の事故により亡くなったとの知らせを受け、急いで実家へ戻り祖母の遺体と対面することになったのです。

祖母は、明治生まれということもあり、戦争前後を生きてきた人でしたから、厳しい性格でした。普段はあまり出歩くこともなくお寺におり、境内の掃除をしたり漬物を漬けたりしていましたから、私が学校から帰ってくるたびに必ず家には祖母がおり、「おかえり」と迎えてくれました。

私が幼い頃は、祖母に手を引かれ本堂へ行き、お勤めするように教えられたものです。私の隣でシワシワの手を合わせ、「ナンマンダブ、ナンマンダブ：」とお念仏する姿は今でも忘れることはありません。

祖母の死は私にとってはとても辛く悲しい出来事でした。遺体の前で、涙が止まらなかつたことを思い出します。皆さまも大切な方を亡くされたご経験があるでしょう。そして、その時の辛さや悲しみは耐え難いものがあります。

「俱会一処」は、もちろんこの身での再会ではありません。ですが、人としての今、この身で実感する慶びなのです。それは悲しい別れではあつたけれども、あなたも私も往くべき世界は一つであつたという慶びであり、私が亡き方を案ずる前に、亡き方が仏となられ私を案じてくださっているという心強さを、仏法に聞かせていただくのです。

私たちの人生には、悲しい別れや辛いことがたくさんあります。しかし、歳月を重ねてもう一度過去を振り返る時、「生きてきてよかった」「悲しい別れがあつたけど、出会えてよかった」「尊いご縁であつた」と言える人生を送りたいものです。それこそが、お念仏をいただいた者の人生ではないでしょうか。

仏事あれこれ

仏事のQ&A

Q. 亡き人はどこへ行った？

A. 阿弥陀仏の救いで

浄土に生まれる

お仏壇は、亡き人が入るところではありません。「それでは、亡き人はどこへ行ったのだ！」と、思われるでしょうから、もう少し解説させていただきます。

実体として捉えた亡き人がお仏壇の中にいるわけではない、ということをしあげたいと思います。一時、よく歌われた『千の風』は、お墓の中に（亡き人は）いないというような歌詞でしたが、それとよく似ています。

すなわち、実体としての亡き人はお仏壇の中にはいないけれども、かたちやこだわりを超えて、仏さまとなられた亡き人はいつも私に寄り添ってくださっています。その亡き人にお仏壇を通して会うということなのです。

実はそれがお仏壇のお仏壇たる所なのです。「亡き人は阿弥陀仏の救いによって浄土に生まれ、仏さまになられている」と味わいます。そして、

お仏壇はその阿弥陀さまの浄土を表しているのです。

本来、浄土は色もかたちもない真実そのものの世界であり、私たちの修行を超えた世界です。それをかたちに表そうとしたのがお仏壇の造りだと言われています。

ということ、亡き人は、お仏壇のどこかにおられるのではなく、阿弥陀さまの浄土に生まれ、仏さまとなつていつでもどこでも私たちに寄り添い、一人ひとりを輝かせようとはたらいておられます。お仏壇はその亡き人が生まれた浄土を表しているのです。

さらに、浄土に生まれられた亡き人の心を伺えば、私たちに「自分を敬い、手を合わすようにせよ！」と上から視線で思ってはおられないでしょう。それよりも、私たちに「限りあるいのちを精一杯生き抜いてくれ。そのためにも、阿弥陀さまの深い慈悲のお心を頼りに人生を力強く歩んでくれよ」と願われていることでしょう。

お仏壇で阿弥陀さまを仰ぎ、お心を受け取っていくことが、そのまま亡き人の心になつていくのです。

『新・仏事のイロハ』より抜粋

お知らせ

きさらぎ
如月忌のご案内

期日：平成30年2月7日（水）

時間：13時～16時30分

場所：築地本願寺 和田堀廟所

（住所：杉並区永福1-8-1）

如月忌とは、仏教婦人会の創設や関東震災の被災者支援など、多くの業績を残された九條武子様のご命日にあたり、そのご遺徳を偲ぶ法要です。九條武子様のご生前のご苦勞を偲ばせていただきます。

※法要に参拝希望の方は、当会館までご連絡ください。

平成30年の年回表

（ご法要のお申し込みをお忘れなく）

平成30年 年回表	
1周忌	平成29年
3回忌	平成28年
7回忌	平成24年
13回忌	平成18年
17回忌	平成14年
23回忌	平成8年
25回忌	平成6年
27回忌	平成4年
33回忌	昭和61年
50回忌	昭和44年

1月行事の様子

★除夜会 12月31日(日) 16時～17時 元旦会 1月1日(月) 7時～9時

昨年に引き続き、除夜会を夕方に、元旦会を朝に行いました。

寒い中、除夜会には10名・元旦会には11名の皆さまがお参りされました。

除夜会「讃仏偈」



除夜の鐘



元旦会「正信偈(行譜)」



御流杯の儀



互礼会



★御命日法座・新年会 1月14日(日) 13時～17時

宗祖親鸞聖人の御命日にあたり法座を開催いたしました。讃仏偈をお勤めし、

ご講師・宮本義宣師にご法話いただき、29名の皆さまがお参りされました。

新年会のお楽しみ抽選会では、様々な景品を用意して盛大に盛り上がりました。

法要「讃仏偈作法」



宮本義宣師



新年会



1月の誕生日の方



1等



2等



3等



▶ 2月の行事予定

如月忌参拝

2月7日(水) 午後1時～

九條武子さまのご命日にあたり、
墓所のある和田堀廟所でお勤めされます。

親鸞聖人御命日お晨朝総参拝

2月16日(金) 午前7時～

月に1度、朝のお勤めにお参りしませんか？
お供物のおさがりをプレゼントいたします。

常例法座

2月18日(日) 午後1時～

ご講師 高山 和明 師
(神奈川県 相模原橋本布教所)
お気軽にお参りください。



▶ 3月の行事予定

東日本大震災追悼法要

3月11日(日) 午後2時46分～

今年で7回忌法要となります。
震災によって亡くなられた方々の追悼
法要をお勤めいたします。

春季彼岸会

3月21日(水) 午後1時～

ご講師 北村 信也師
(東京都 稱讚寺)
心に彼岸(お浄土)を思い、
お聴聞いたしましょう。



東久留米会館会報 「ともしび」
第262号
発行日 2018年2月1日
発行者 安邊 泰教
住所 東京都東久留米市柳窪5-8-30
電話 042-474-6787

編集後記

先日の大雪で、境内は一面銀世界となり、朝日に照らされ幻想的な景色でした。そんな中、朝から黙々と除雪作業に追われていたところ、学校から帰ってきた長女と休憩がてら雪だるま作りを楽しみました。今年の出来は、我ながら傑作だと思いますが、いかがでしょうか？
(安)



今月のお仏飯米の進納
奥川 眞三様
大嶋 弘様(清酒)
矢代 善一様(野菜)
ありがとうございました。